

⚠️ 平成21年 ヒヤリハット標語 栄光の賞に輝いたのは!?

2009年12月26日、宮田病院の忘年会にてヒヤリハット標語の表彰式が執り行われました。各賞に輝いた標語をご紹介します。

【最優秀作】 その体験 伝えて活かして あなたから
ケアプランサービス 栗原 麗子

【優秀作】 見逃さない 感じた疑問 すぐ確認

デイケア 渡邊 馨一

【第3位】 「安心」は ひとつひとつの 積み重ね

薬剤科 中村 美紀

【第3位】 カルテの字 きれいに書いて事故防止

2階病棟 石田 桂子



【最優秀作】 その体験 伝えて活かして あなたから

お知らせ ～第11回糖尿病及び合併症のための講演会～

— 筑豊地区 —

近年、わが国の糖尿病患者数は増加の一途を辿り、2007年の厚生労働省の調査によれば、糖尿病を否定できない人(即ち、予備軍を含める)は、2,210万人と推定されると言われています。今回、宮若地区で糖尿病に関する講演会と個別相談を開催することになりました。現在糖尿病でない方でも、糖尿病に関心がある方など、どなたでもお越し下さい。家族の方、医療関係者の多くのご参加をお待ちしています。

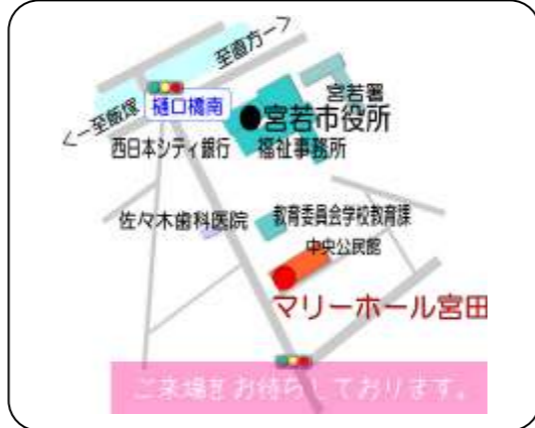
入場
無料

開催
日時 **2月27日(土)**

12時00分～16時00分

会場 **マリーホール宮田**

宮若市宮田72-1 Tel:0949-32-0123



ご来場をお待ちしております。

【内容】

●12時00分～16時00分

- ・血糖・血圧測定等
- ・健康相談(医療相談、生活相談、栄養相談)
- ・食生活に関する展示

●13時30分～16時00分

- ・講演1「糖尿病になりやすい? なりにくい?～なりやすいとしたら?」
嶋田病院 内科部長 赤司 朋之先生
- ・講演2「レコーディングダイエットで糖尿病克服を目指す」
西日本新聞社 編集局報道センター 都市圏総局
川上 弘文氏

【共催】 日本糖尿病協会福岡県支部・宮若市

【後援】 糖尿病対策推進会議(福岡県・県医師会・日本糖尿病学会)
直方鞍手医師会・嘉穂鞍手保健福祉環境事務所・直方市・鞍手町・小竹町

【代表世話人】 医)相生会 宮田病院 院長 中山 真一

【問合せ先】 日本糖尿病協会福岡県支部(九大第二内科研究室内)
Tel 092-671-0611 (Fax兼用) 藤本
相生会宮田病院 Tel 0949-32-3000 FAX 0949-32-2997
管理栄養士(糖尿病療養指導士)大脇 令子
臨床検査技師 松原 竹広
宮若市 民生部健康増進課 Tel 0949-55-6000 FAX0949-52-1660
健康対策係 田川 澄子

2010年 新春号

みやた



発行所 医療法人相生会 宮田病院
〒823-0003 宮若市本城1636
TEL0949-32-3000
FAX0949-32-2997
発行日 平成21年1月20日
発行人 広報編集委員 NO.28

TIMES



<http://www.lta-med.com/miyata-hospital/>



CONTENTS

- ☆新年のご挨拶
- ☆検査のはなし ～「女性と超音波検査」～
- ☆福岡大学薬学部OB研修会
- ☆日帰り院内旅行 ～大分臼杵の石仏と料亭山田屋のふく～
- ☆ソフトボール大会
- ☆お誕生会 ～デイケア～
- ☆クリスマス会 ～託児所～
- ☆平成21年 ヒヤリハット標語
- ☆お知らせ ～第11回糖尿病及び合併症のための講演会～

ヒヤリハット標語

最優秀作 その体験 伝えて活かして あなたから

新年のご挨拶 “素直に感動できること”



宮若市の皆様、そして宮田病院のスタッフの方々、明けましておめでとうございます。

今年は寅年、勇猛果敢なイメージで、男性的な波乱万丈な年になりそうに感じます。

「虎穴に入らずんば虎子をも得ず」やはり勇気を持って「虎視眈々」と難題に立ち向かう年でしょう、もちろん「張子の虎」などと揶揄されないことを願います。

さて昨年は、オバマ大統領の登場に始まり、アメリカのシンボルでもあったあの巨大なGM社の破綻、夏の衆院選からの政権交代劇、2008年のリーマンショックに続く不況の深刻化、さらに新型インフルエンザ騒動などまさしく激動の1年間でした。皆さんにとってはどんな事柄が記憶に残るものでしたか？私にとっては18歳のゴルフ賞金王、石川遼君の登場も驚きでしたが、なんとと言っても盲目のピアニスト辻井伸行君の登場は感動的でした。感動のヴァン・クライバーンコンクールの実録報道に続いて、何度も彼の生い立ち、音楽との関わりの歴史などが放映され、お気づきの方も多いことと思います。

辻井伸行君は1988年生まれで現在21歳です。石川遼君は18歳で昨年度の賞金王という偉業を成し遂げていますが、辻井君はまったくの全盲のようで、五体満足な我々では、想像のできない次元の領域の人と言えます。世界中に有名なピアニストは存在していますが、視覚の助けはまったくのゼロで、聴覚（音感）だけの世界で築きあげた特別のピアニストです。想像することさえできません。生後まもなく視覚障害に気づかされた親御さんの気持ちはやはり絶望というものだったと思います。そこから奇跡が始まっているのですが、なんと2歳の時にCDから流れるブーニンの奏でるショパンのポロネーズに彼は特別の反応を示したそうです。聞き分けていたわけですから、恐るべき才能です。そして才能だけではありません、その2歳の盲目の幼児の発する特別のサインに気づいた母親もすごいことだと思います。絶望の毎日の中で神が微笑んでくれたとしか思えません。その後はもちろん彼のために両親はあらゆるエネルギーを注ぎ、そして彼を指導することになった先生方の覚悟、苦勞と熱意は想像を絶するものであったと思います。また辻井君本人にも周りの人々を動かす、何か特別のものを持っていたということでしょうか。7歳で全日本盲学生音楽コンクール器楽部門ピアノの部第1位受賞、2005年（16歳）でショパンコンクール批評家賞受賞ということですから、専門家の間では早くから注目を集めていたようですが、恥ずかしながら私は昨年知ることになりました。それにしても子供の可能性はうまく開花させれば（奇跡？）本当に想像を絶する事態が起こりうるものだと思います。わずか15年ほどの期間で世界のトップレベルに駆け上がるわけですから。それも全盲です。彼の奏でる音楽を特別の感動を持たずに聞くことのできる人がこの世に存在するのでしょうか？万人の心を打つ響きだと思います。皆さんもぜひとも彼の音楽に触れ、素直に神の与えた才能と奇跡の調べに感動してみてください。

最後に彼の母親は「伸行くんの世界は我々が想像するような暗黒の世界ではなく、もっと豊かな情景の広がった世界のように知ったときに明るい一筋の光明を感じた」と述べています。またオーケストラの指揮者は「辻井君はすでに“盲目のピアニスト”を超えて世界を代表するピアニストへと成長している」と評しています。彼のますますの活躍を五体満足で子育てもほぼ終了してしまった私はただただ願うばかりです、そして子育てに奮闘中の私の周りのお母さん方にもあらためてエールを送りたいと感じた新年でした。

院長 中山眞一

お誕生会&もちつき ~ディケア~



12月15日、ディケア室にて「もちつき」を開催いたしました。

つきたてのおもちがふんわりと白く輝き、利用者の皆さんも思い思いにきな粉を付けとてもおいしそうに食べられていました。また、24日にお誕生会を行いました。お誕生会では、スタッフによるハンドベル演奏やトランペット演奏を披露しました。



クリスマス会 ~託児所~



託児所では毎年恒例のクリスマス会を開催しています。今年も遠くからプレゼントを持ってサンタさんが来てくれました。可愛い子ども達も大喜びでした。(^^)



検査のはなし ～「女性と超音波検査」～

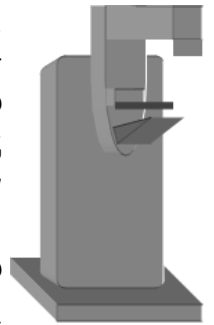
病院で仕事をする私たちには本に載ってはいないけど先輩から引き継ぐ教訓のような言葉が幾つかあります。「女の人を見たら妊娠していると思え」というのもその一つです。例えば、見かけだけで勝手に年齢を判断して検査を進めてゆくと「レントゲンを撮った後に妊婦さんだった」と云う事になりかねません。だからそんな失敗をしないために生まれた言葉なんだとおもいます。

じゃあそんな時はどんな検査から始めたらいいの？という素朴な疑問が芽生えたりします。その答えの一つに超音波検査があります。そう、おなかの中の赤ちゃんを見たりするアレです。産婦人科などでよく使われていて、女性の方であれば一度くらいは聞いたことがあると思います。なんせ音で検査するんですから安全性は高いです。

この「女性と超音波検査」というお題にしたもう一つの理由に乳がん検診としての超音波検査があります。この場合の“女性”とは検査を受ける側と行う側の両方をさします。女性を取り巻く環境も自由かつ開放的になったとはいえ女性自身の「恥ずかしい」という気持ちに変わりはありませんよね。そんな小さな声にも病院は「変わらなきゃ」と思い始めています。病院にしてみれば技師を常に女性にするといった小さな変化ですが、検査を受ける人にとっては勇気百倍かもです。

最近になり超音波装置でも、やっと浅いところ（表在）の検査ができるようになって“乳がん”と云う強大な敵と戦う準備が出来るようになったのですが、そんな乳腺超音波検査も万能ではなく良性、悪性の判定にはマンモグラフィーはやはり欠かせません。それは“がん”かどうかを判断するのに重要な細かい石灰化が超音波検査ではなかなか見えないからです。そのため、今でも超音波とマンモグラフィーの併用でお互いの欠点を補っています。

しかし、技術の進歩はたいしたものので最先端の装置には微細石灰化を認識しやすくするソフトも開発されてきました。超音波はますます女性に優しい検査になってゆくようで、これからも目が離せませんね。



検査科 高橋 秀年

福岡大学薬学部OB研修会



11月5日、寿会館にて「筑豊地区福岡大学薬学部病院薬剤師学術研修会」に参加しました。年に1回開催されており、今回で第12回目になります。第9回では宮田病院として初めての参加でしたので、演題は「宮田病院薬剤部紹介」にしましたが、今回は「病棟専任薬剤師の活動内容」について講演しました。50名程の薬剤師の前で講演してとても緊張しましたが、他病院の薬剤師から薬剤管理指導の方法や持参薬管理の流れなど参考になったと言っていました。これらの事に関しては病院によって取り組み方が様々であり、どの施設でも悪戦苦闘しているようです。

その他の講演には、「骨転移症例に対するゾメタの有効性について」「臨床研究部発足から今日までの業務内容」がありました。通常の業務以外にも薬剤師としていろいろな仕事に携わっており、みなさん頑張られているようです。この研修会では、新人薬剤師からベテラン薬剤師まで参加しているので、世代を越えて情報交換ができます。来年の研修会では、どんな演題があるんでしょうか・・・楽しみです。

薬剤科 小出 加奈子





日帰り院内旅行 ～大分臼杵の石仏と料亭山田屋のふぐ～

11月22日（日）朝8時、総勢27名（大人22名、子供5名）を乗せたバスは宮田病院を出発しました。紅葉した山々を車窓から眺め、バスガイドさんの流暢な観光案内を聞きながら、バスに揺られること約3時間半、目的地 大分県臼杵市に到着しました。



まずは大日如来像に代表される国宝の臼杵石仏を観光しました。岩肌を背に整然と並んだ仏像群は存在感があり、荘厳で力強さを感じました。

続いて下関に並ぶ“ふぐ”の郷である臼杵の地で創業104年を誇る老舗料亭『山田屋』に行きました。暖簾をくぐり手入れの行き届いた中庭が見える廊下を過ぎ、通された大広間には高級感漂う装飾品の数々。目の前には大皿に大輪を咲かせた、お待ちかねの“ふぐ刺し”が並んでいました。豊後水道の潮流で育った臼杵ふぐは身に弾力があるため厚切りにしか出来ないとのお刺身をたっぷりの肝を入れた特製ポン酢でいただきました。本当に絶品でした！（日本でフグ肝の調理が許可されているのは 大分県のみ?!らしいです）そのあと唐揚げ、ふぐ鍋、ふぐ雑炊をいただき、老舗のブランドに恥じない味、サービス、雰囲気、優雅でこの上ない至福のときを過ごした1日でした。



総務課 園田 見佐子

ソフトボール大会

去る11月8日（日）、恒例の宮田企業交流ソフトボール大会が開催され、総勢20チームが2ブロックに別れ熱戦が繰り広げられました。病院もこの大会に向けて小西副院長を筆頭に3回の練習を行い、7年ぶりの優勝を狙いにいきました。

当日は晴天に恵まれ、いざ1回戦は、強豪の大成運輸さんと対戦しベストメンバーで望みましたが、打撃戦の末17対16の1点差に泣く事となりました。

優勝は逃したもののトーナメントに関係ない親睦戦では、残りのメンバーで望み22対16のコールド勝ちを収め、こちらも7年ぶりに勝利を勝ち取ることができ、来年もAブロック残留が決まりました。

当日参加された職員・家族（45名）の皆さん本当にお疲れ様でした。来年は2チーム参加で優勝を目指しましょう。



総務課 白石 弘人

